

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503544		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホーム ハートの家 参番館		
所在地	札幌市白石区平和通2丁目南6-28		
自己評価作成日	平成22年12月15日	評価結果市町村受理日	平成23年3月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的雰囲気の中、落ち着いたある時間を過ごしていただきたく思っております。入居者様同士、協力し、助け合って日々を過ごすことで、共に生きているという実感をお持ちいただけるように、職員一同お手伝いをさせていただきたく思っております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigooho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503544&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム所在地は、JR駅やバス停から近い交通至便の地で、商店、事業所、マンションが混在する比較的賑やかな立地ですが、この環境がホーム利用者にとっては、日常的に買い物や散歩で出歩く際に大きな刺激となって日常生活行動レベルの維持に役立っています。複数の介護事業所を展開する法人の運営方針や介護理念には、ホームが地域に根ざして、共に支え合う関係の構築を重視しており、町内会各種行事への積極的参加やホーム主催の夏祭りに多くの近隣住民の方々に来て頂くなど、地域との連携が進んでいます。利用者ができるだけ戸外に出る機会を増やすため、日常的な散歩や買い物以外に、利用者一人ひとりの希望に応じて好きな場所へ出かけたり、月間行事の夕食、花見や祭り見物、温泉宿泊など、活発な外出支援を行って家族から好評を得ています。職員同士の良好な人間関係が、利用者へのケアサービスに反映され、ホーム内は明るく家庭的な雰囲気があり、利用者は毎日の生活をゆったりと安心して過ごしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念はホーム内に掲示しており、会議やカンファレンスの際に取り上げることで職員が意識するように取り組んでいる。	ホームは、地域との関わりを重視した運営方針と介護理念を有しています。職員は、日常業務や会議等を通して確認し、共有しながら実践に活かすようにしています。	法人が運営する複数の介護事業所共通の介護理念がありますが、併せて当ホーム独自の理念の検討と作成を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お買い物や散歩、理美容などで地域資源を活用し、店舗活用やふれあいにより、地域とのつながりを確保している。	ホームは、立地特性から地域の商店街振興会に加入し、町内会行事へ参加しています。また、ホーム主催の夏祭りには、周辺住民の方々が多数参加するなど、地域との交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	白石区第一地域包括支援センター主催の認知症講座のお手伝いをさせていただいております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、施設における活動状況の報告を行うと共に、法人の運営状態をお伝えしており、質問などにもお答えしております。	運営推進会議は、町内会や行政関係者等の参加を得て定期的に開催し、状況報告や意見交換を行って、運営に反映させるよう努めています。	会議内容に応じて、消防署など関係者が会議に参加していますが、定例の参加メンバーは、町内会会長と包括支援センターにとどまっています。今後は、町内会関係者、民生委員、教育関係者などメンバー増員を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政からの情報で、入居者様に関わる点につきましては現場に伝達するなどしております。	管理者や職員は、随時、行政窓口を訪問して書類提出や相談を行い、管理者会議等においても担当者と接触するなど、行政との連携に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内における「身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会」にて、虐待や身体拘束についての検討を行い、委員から各職員への伝達を行っている。	運営法人内に身体拘束防止に関する委員会が設置され、マニュアルも完備しています。職員は、会議等で内容を理解し、共有しています。また、玄関の施錠は夜間のみで、ユニット入口には施錠は有りません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会よりの報告や会議の場、申し送りの際などにおいて、虐待などについての意識をするように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内における「身体拘束・抑制廃止・虐待防止推進委員会」にて、権利擁護についての検討を行っている。また、成年後見人制度の活用を行う家族への対応や、医療機関との連絡調整を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約までの間に施設側からの疑問点の確認を行なうと共に、御家族やご本人様の質問をお受けしております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や御訪問の際にお話しすることや、玄関に意見箱を置く事で少しでも御意見を頂戴できるように取り組んでおります。	家族来訪時の話し合いや便り、電話等で利用者の情報を提供し、意見や要望等は、申し送りや会議で検討しながら、解決するようにしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議において、意見交換などを行っております。	管理者は、日常的業務や毎月の職員会議で意見等を把握するように努め、法人全体の管理者会議において協議しながらホーム運営に反映させるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各会議やカンファレンス等の中の重要なものについては、管理者会議の場などで確認を行ない、必要なものについては理事会などにおいて検討をされております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修会を行うと共に、外部研修への参加を行っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各会議や研修会などにおいて同業者との情報交換などを行っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の不安を受け止めつつ、情報収集を行い、施設やサービスの説明を行う事で安心感をもっていただけるように対応しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限りご本人様に事前見学を行っていただき、施設・ご利用者様・ご家族様のお互いの理解が深まるようにしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族及び医療機関のソーシャルワーカーと相談しながら入居者にとって必要なサービスのあり方を検討し、介護計画に反映させるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な関係にならないように、一人一人に合う言葉を考え、今出来ることを見つけながら、出来ることを協働しております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の来訪の際には、近況や必要なものをお伝えする事で、御家族としてご入居者様の生活を支えていただくことを意識していただいております。また、ゆったりと自室で過ごす事で、家族の絆を深めていただいております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族宅への外泊をさせていただいたり、施設での行事に御家族にも参加していただいております。	昔馴染みの飲食店や美容院など、利用者一人ひとりの希望に沿って外出支援を行っています。また、知人等の来訪者を歓迎して、馴染みの関係が継続するように配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご入居者様の関係などを踏まえながらフロアの席を決めるなどしております。買出しや行事、各種活動の際に協力する場面を作ることで関係作りになるように配慮しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたあとにも、御家族よりの相談にお答えしたり、入院先へお見舞いさせていただいております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会があるごとに会話の中で意思確認を行ったり、意思表示が難しい方の場合には表情や素振りから意思を汲み取るようにしております。	日常のケアサービスを通して思いや意向を把握し、会話不能の場合でも根気よく見守りながら、利用者の意向を汲み取るように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、アセスメントシートなどによりご入居者様の理解に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を確認し、個別記録などにより職員間で情報の共有を行っております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中での課題などについて、現状や変化などについてカンファレンスや会議によって問題の抽出を行い、介護計画を作成しております。	介護計画は、家族、医療機関と十分に協議して作成し、アセスメントやモニタリングを経て、見直ししながら、会議で職員の共有とじています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日常の様子を記録する事で、情報の共有を行い、検討に活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診支援や買い物、美容室への送迎や車椅子対応の車両による遠方への外出などに取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパーや美容室、病院や時計屋さんなどを活用する事で生活を豊かにするように心がけております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や定期受診、検査などによりご入居者様の健康管理をおこないます。また、医師よりの情報を御家族様にお伝えする事で御家族様にも安心していただいております。	2週毎の訪問診療と希望に応じて歯科の訪問診療もありますが、家族及び利用者の希望により、かかりつけ医の受診も自由です。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師からの往診前の確認や、不調時には施設からも連絡をする事で情報の共有や相談を行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には施設での情報をお伝えすると共に、入院中も状態の確認をさせていただいております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の可能性が出た際には、早期に御家族様と医師の確認を行ない、必要時には医療機関との調整を行います。	ホームの方針として、終末期への対応は行っていないが、重度化については、利用者の状態に応じて家族や医療機関と相談しながら、病院移行などの支援に取り組んでいます。	利用者の重度化について、ホームとしての具体的対応策を文章化して、入居時や早い段階から家族に説明し、同意を得ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内研修において急変時の対応法の研修を行うほか、連絡法などの確認を行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練を行っているほか、災害時には町内よりの協力をお願いしている。	スプリンクラーの設置は完了し、年2回の避難訓練や夜間想定訓練は実施済みであり、救命救急訓練も順次受けています。緊急用の飲食物品も備え、備品類も準備予定です。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各ご入居者様の人間性を尊重し、名前の呼び方や声の掛け方に気をつけて対応している。	職員は、利用者一人ひとりを尊重しながら接して、プライバシーや誇りを損なわないよう心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の対応の中で、会話内容や意思確認により自己決定が出来るように取り組んでおります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日その日の流れは大まかに決まっておりますが、その中でご入居者様のペースにてお過ごしいただいております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご入居者様に声を掛けながら、共に選んだり探したりしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入や調理、盛り付けや片づけを会話を楽しみながら行っていただき、職員も見守りつつ共に活動や食事を行っております。	利用者と職員が共に食材購入、食事準備と後片付けをし、食事中は、職員も同じテーブルで見守りや介助をしながら、一緒に食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人共通の献立表を元に、各ご入居者様の身体状況を踏まえて量や形態を変えて食べていただいております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各ご入居者様に口腔ケアの声かけを行い、自力にて行うことが難しい方につきましては、職員が介助しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失敗のある方につきましては、定時のトイレの声かけや誘導を行っております。	排泄が困難な利用者については、排泄チェック表で確認し、一人ひとりの状態に合わせた排泄誘導などの支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量に配慮する他、野菜の摂取やゼリーの活用などを行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	男性の入る曜日や女性の入る曜日の設定はありますが、体調や行事などを踏まえながらシャワー浴や別な入浴日の設定を行っております。	入浴は、週2回を原則とし、決められた曜日に実施していますが、利用者の体調や希望に応じて入浴日の変更を行うなど、柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は充実感や達成感を持っていただけるような活動を行っていただきますが、体調などを踏まえて昼寝なども行っていただいております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各ユニットに服薬内容を記載してある用紙を用意したり、受診時の薬の説明を受けた際のノートを活用しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操やカラオケ、折り紙やちぎり絵の他、家事活動を職員と共に行っていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブなどによって戸外活動を楽しんでいただいております。季節行事や一泊二日の温泉旅行を実施しております。	ホームは、利用者の戸外に出る暮らしを重視し、散歩や買い物以外に一人ひとりの希望に応じた外出、月間行事の夕食や花見等のドライブ、温泉宿泊など、バラエティに富んだ外出支援を実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様のお買い物をする時や外出先でのお買い物時には、出来るだけご本人様にお支払いいただけるように対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族への電話や、知人からの電話は、ご本人様とお話ししていただいております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間につきましては、季節感ある飾り物をしたり、皆の思い出の写真を張るなどして心地よい場所作りを心がけております。	食堂兼居間及び廊下の共用スペースには、季節の飾りや手作り作品、写真などが飾られて、親しみと家族的な雰囲気があります。浴室やトイレ等も十分な広さと清潔感があり、利用者は居心地良く過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の椅子や、共に座れるソファを用意するなどして、その時のお気持ちにあった過ごし方が出来るようにしております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、それぞれの方のなじみのある家具や掲示物をお持ちいただき、落ち着いたお部屋となるように対応しております。	マンション改造型のため居室のスペースは広く、クローゼットや吊り棚もあります。利用者は、好みの調度品等を持ち込んで、自分なりの生活を楽しみながら過ごしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の手すり、フロアのつかまりやすい背もたれの椅子など、ご自身での歩行を維持できるよう配慮しております。水道はレバー式にするなど、出来ることの多い環境作りを心がけております。		